

# 月にみがきて



更級小学校だより

No. 8 H25. 12. 2



## かがやく顔

## 情けは人のためならず

懐かしい運動会の顔です。組み体操の下になっているが、上に乗っている人に負けず劣らず輝いている顔ではないかと思えます。そこにはたくましさを感じます。友のために友を支えることに揺るがぬ決意をもっている顔です。どの顔も頼もしいという顔です。

騎馬戦はどうでしょう。上の子が帽子を取ろうと必死になるのはあたりまえですが、下の子もその足を支えながらまるで我が手の先を見るように見上げています。人馬一体となって戦っている姿はまさにあの騎馬戦の像を思い出させます。

上になって戦いたいという子もいるでしょう。下でいいという子もいたでしょう。しかし、四人一組が一体となっているところにすばらしい顔が生まれます。

当事者である子どもたちみんなが納得して役割を決め、一体となって戦ったところにこのすばらしい顔が生まれてきたのだと思います。

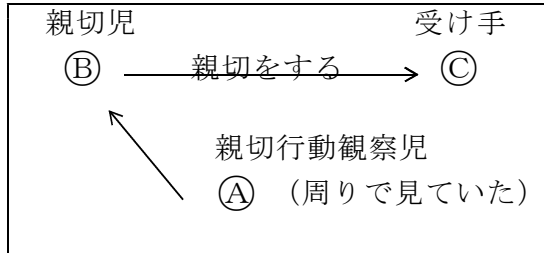


「情けは人のためならず」という言葉があります。最近、この意味を情けを相手にかけることはその人のためにならないからしない方がよいと解釈している若者が多いといわれ、話題となったことがあります。正しくは、情けをかけることは「人のためではない」それは巡り巡って自分に返ってくることだから「自分のため」なのだという意味です。

まさにこの写真の友だちのために下で、見えないところで支える子どもたちのすばらしい顔は、この言葉を表しているようにも思えてきます。

最近、この「情けは人のためならず」のことわざが本当に人間関係の中で生まれているのか、幼児の日常生活を観察して確認した大阪大学大学院の大西賢治助教授らの研究結果が明らかにされました。

それによれば、幼児BがCに行った何らかの親切な行動を1m以内で見ていた幼児（親切行動観察児）が、その後の10分間で幼児Bに対してどんな行動をするか記録し分析したそうです。

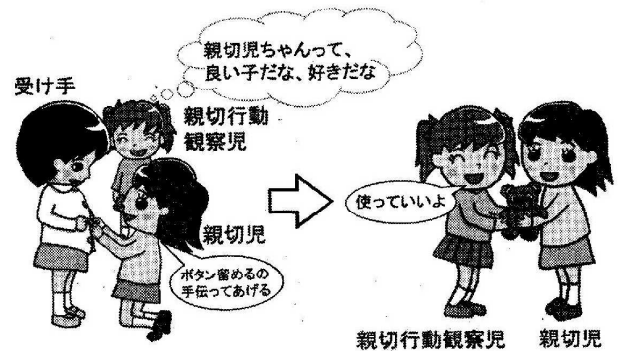


その結果、親切を行った幼児Bは周りでそれを見ていた幼児から好ましく思われ、自分も親切にされることが明らかになりました。この結果からよいことをすれば周りからよく評価され扱われるという「情けは人のためならず」は幼児の日常生活で働いているルールであることが実証されました。

そこで、どうすればこうした幼児の「他の人に親切を行う性質」（専門的には利他性）をより伸ばしていくことができるかということが問題になります。

近年、バルネケンとトマセロが行った研究によると、幼児に知らない大人を助ける場面で親が促したり指示しても他人に親切をする行動はとれなかったばかりでなく、おもちゃなど物質的な報酬を与えると自発的な他人に親切をする行動が損なわれてしまうことが報告されています。つまり、もともと幼児にとって他人に親切をすること自体が報酬になって楽しくお手伝いをしていたのに、物質的な報酬をもらうことで、それが主たる目的となり、物質的な報酬がなくなると他人に親切にする行動をやめてしまうということです。

幼児における社会間接互惠性の例



幼児は条件が整えば、全員が先に書いたルールにより自発的に他人に親切にする行動を互いに交換しています。ですから、大人は直接的に介入するのではなく、親切をしている幼児の言動を他の幼児に見えやすくすること、また、幼児は他者の親切をする行動をまねる傾向もあるので、よい行動を周知したり大人が自然な親切行動をする姿を見せてモデルとなることがよいようです。気をつけなくてはいけないのはその際過度にほめたり、シールを貼って掲示したり、物を買って与えたりするような報酬を出さないことです。本来、人間が持っている人間関係を築いていく力、そのすばらしさが科学的に明らかにされつつあるようです。子どもたちのよい行動を期待するあまり、周りの大人達がよかれと思ってしている介入が実はそれを邪魔しているということがよくあります。何かが出来たから物を買って与えるといったことは気をつけていかなければいけないことだと思います。

## 「秋が来た」 俳句大賞

先月号でご紹介しました子どもたちの俳句の続きを掲載します。なお、先生方の投票で各賞をつけさせていただきました。みんなその子の感性が活かされていてすばらしいです。次号にも続きを。

金賞	秋がきた	山がおけしょう	しはじめる	5年	池田	琴
	秋がきた	カマキリ空を	みあげてる	3年	林	ラム
銀賞	秋がきた	いちょうの木の色	こがねいろ	5年	森	ゆう
	秋がきた	おばすてたなだ	いいながめ	3年	市川	有紗
	秋がきた	おちばをひろって	みのむしだ	2年	森	琢美
佳作	秋がきた	秋のみかくは	高すぎる	6年	水井	あかり
	秋がきた	お手紙の音読	たのしいな	2年	宮澤	祐風